
魔王になってゲームを進めてやる

ミヤコー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔王になってゲームを進めてやる

【Nコード】

N9071R

【作者名】

ミヤコー

【あらすじ】

亮介…「基本的にさゲームに出てくる魔王って馬鹿だよね？」

圭太…「何を唐突に・・・」

「

亮介…「だってさわざわざ城なんかで待ってなくて出向けば相手はLv1なんだぜ？絶対勝てるだろ！？」

要無いだろ」

圭太…「そんな無理ゲー誰がするの!?! 需

亮介…「クソゲーははまると面白い」

圭太…

「クソゲーですら無いよね? ってか現実的に無理でしょう?」

亮介…「じゃあ可能だったら参加する!?!?」

圭太…「多分しない

よ?」

とりあえず魔王になろう（前書き）

※この作品は基本的に「地の文」がほとんど存在しません。
個人個人の想像力をもって感情をイメージしてください。

そして「地の文」である私が言える説明は、主人公・作者は残念だ
ということです。

とりあえず魔王になろう

亮介.. 「俺の名前は亮介、これから魔王になる男だ?」

圭太.. 「何言ってるのかまるで分からないよ、、とりあえず状況報告とかしてくれないかい?」

亮介.. 「詳しく言うのと長くなるから簡潔に言うよ・・・『雇われた?』」

圭太.. 「この不況のご時世に良かったね、でも僕たちは高校生だからバイトも程々にしといたほうがいいよ?」

亮介.. 「違うっての、正式採用なんだよ?」

圭太.. 「オイオイ、中退する気かい? ハッキリ言っ辞めといったほうが良いって。ただでさえ不況なんだよ?」

亮介.. 「もう職が決まってるんならむしろ良いんじゃないか?」

圭太.. 「それもそうか・・・ってそんな訳あるか?」

亮介.. 「何が不満なんだよ?」

圭太.. 「不満は一杯あるけど、敷いて言うならせつかく良いL Vの高校はいったんだから辞めるなってとこかな?」

亮介.. 「魔王にL Vなんて関係ねえよ? 頭の良さは必要だろうけど」

圭太.. 「頭が良い分・・・思考が腐ってるんだなあ、、不憫な奴」

亮介.. 「とりあえず一度『魔界』ってのに行ってみたいと思う」

圭太.. 「そうか、、お土産はストラップとか頼む。いつもの様以後でお金払うから¥」

亮介.. 「お前の収集癖もあいかわらずだな」

圭太.. 「ほっとけ、でいつ行くんだ? ーーーってちょっと待て?」

亮介.. 「うおうビビった、イキナリどうした? 噂の切れやすい十代か?」

圭太.. 「違うわ、百歩譲ってそうだとしてもイキナリでわないと思

いますかね？」

亮介…「ええ？本当に？って怖いから襲う様な目で睨むのはやめてくれ、マジ目つき悪いぜ？」

圭太…「二百歩譲って目付きが悪いとしても君を襲う事は無いからね！？」

亮介…「なんで百歩遠ざかったか分からんけど冗談だから気にするな、・・・それでなしてイキナリ大きな声出したの？」

圭太…「分からないならいいけど、君はさっきどこに行くって言ったんだい？」

亮介…「魔界だよ、マ・カ・イ」

圭太…「聞き間違えであって欲しかったけど・・・残念だ。」

亮介…「オイオイ嫉妬？」

圭太…「安心してくれ、腕の良い精神科・脳外科は探してやるから」
亮介…「いやいや、正気だからな？正常だからな？」

圭太…「ああ、君視点では正常だろう・・・つまり一般の視点では異常だよ」

亮介…「さては信じてないな？じゃあみてろよ？」

圭太…「少しでも信じてると思ってた事に驚愕するよ・・・で、何する気なの？」

亮介…「コレを地面に突き刺すだけだぜ？」

圭太…「どう見てもーいーいやいやこれって純金と宝石でできた鍵！？何処から持って来たんだ！？」

亮介…「それは追い追いかけてつとーいっほいつ」

圭太…「何これ？地面が飴みたいに溶けて・・・」

圭太…「っってお前だけ飲み込まれたんだけど！？ここで僕をほって行くの！？、、まあ行きたく無いからいいけど。」

圭太…（手品・・・って訳じゃ無いよな！？）

とりあえず魔王になろう（後書き）

無理ゲーに対抗する方法がうかばねえ（嘆

勇者になってとっと話を進めろ（前書き）

亮介.. 「俺の理想から離れて行く」

圭太.. 「知らないよそんな事」

亮介.. 「好き勝手したいのに」

圭太.. 「シナリオ操れる時点で好き勝手しすぎでしょ!？」

勇者になってとっと話を進めろ

圭太…「僕は圭太、趣味は料理に剣道・後はゲームをするぐらい。ただしホラーゲームだけはNGだけだね。昨日の学校帰りに友達の亮介が馬鹿な事を言い残して地面に消えて行っちゃってから一応眼科・脳外科に行って見たけど異常は無かったみたいだ。」

圭太…（つまり・・・あれは現実って事なのかな？）

『キーンコーンカーンコンコン』

圭太…（何度聞いてもウチの学校のチャイムっておかしいよな？）

先生…「よーしみんな席に着けー」

圭太…「亮介は今日遅刻、もしくは来ないかもしれません」

先生…「ほう、堂々とサボるということか？圭太」

圭太…「みたいな事をメールで言っていました」

圭太…（魔界に行った（？）とは言えんよなあ）

先生…「全くあいつの親は・・・海外だから何も言えんなあ」

亮介…「すいません、遅刻したけど謝ったので許してください。」

先生…「おお、サボらずに来たから拳骨で許してやろう」

亮介…「痛え！？何回喰らってもこの染み渡る理不尽な痛さには馴れない」

先生…「馴れんで良いからとっと席につけホームルーム始めるぞ」

『休み時間』

圭太…「なんでいるの！？」

亮介…「ええ？ここのクラスだぞ、俺？」

圭太…「そう言う事言ってるんじゃないって分かるでしょ？」

亮介…「まあ、言いたい事は分かるよ？でも『とりあえず一度』っ

て言っただろ？」

圭太…「そう言われるとそうだけど、、普通は帰って来れないモンでしょ？」

亮介…「オイオイ、学校もあるのにそれは有り得ないって」

圭太…「悔しいけど正論だ」

亮介…「なんで悔しがるのが？おかしいだろ」

圭太…「まあそれは良いとして・・・本当に『魔界』とやらに行つて来たの？」

亮介…「ああ、ちゃんと第十三代目魔王になって来たぜ？」

圭太…「それはまた・・・不吉な番号だな？」

亮介…「しかあし？問題があるのだよ？」

圭太…「急に大きい声出すな？・・・クラスの皆さんすみません、どうぞお話に戻ってください」

亮介…「そして、その問題とわあ？」

圭太…「ちよっと本気で五月蠅い、（勉強中の）委員長が睨んでるぞ？」

亮介…「ごめんなさい、調子に乘りました。」

圭太…「まあそれで？問題とはなんの事？」

亮介…「いやゝゝゝ、勇者がいなくてね？なんかつまないんだよ」

圭太…「前の十二代まではいたんでしょ？それに頼めば良いんじゃない？」

亮介…「丁重に断られたー曰く、『一度攻略したからステージ憶えてるしLvも武器も魔法も仲間も最強だよ？後正直めんどくさい』だとさ・・・」

圭太…「確かにひどいゲームだなスラムがかわいそうだ」

亮介…「なので代々勇者の資格となっている『勇者の紋章』貰って来たからやってくれないか？」

圭太…「拒否権は？」

亮介…「無い？代わりに黙秘権ならあるけど？」

圭太…「むしろ喋らないと立場悪くなるだろ」

亮介.. 「それでやってくれるか？」

圭太.. 「当然ことわ・・・」

亮介.. 「万が一断ると言うなら『真央』にやってもらう事になるが？」

圭太.. 「他人の（僕の）妹人質に取るとか最低だな！？」

亮介.. 「あいつなら進んでやりそうだが？」

圭太.. 「否定できないけどね？・・・はあ分かったよ」

亮介.. 「快諾してくれて嬉しいよ」

圭太.. 「快諾って辞書で引いてみる？」

亮介.. 「快諾ーナーナニニ、物事を、」

圭太.. 「長いから？もう良いよ、、やれば良いんでしょ？」

亮介.. 「さすがは親友」

圭太.. 「やつても良いけど『開幕即死・物価高騰・必須イベント（見ないと積む）』とかはやめろよ？」

亮介.. 「ええ？いきなり魔王が現れたって、、」

圭太.. 「や・め・ろ・よ・？」

亮介.. 「わっ分かったぜ」

亮介.. 「マジで目が怖い、ヤクザだろ？イケメンの」

亮介.. 「ところで恋愛要素いる？魔王権限で付け加えられるけど？」

圭太.. 「妹・もしくは見た目妹な姉的なキャラで頼む」

亮介.. 「・・・・・・本当に残念なヤツだーこれは勇者の人選ミスったか！？」

勇者になってとっと話を進めろ（後書き）

とりあえずネタ安定（すれば良いのになあ）
バイトある日は投稿出来ん・・・

普段の学校生活――はやくゲーム始めろよ？（前書き）

圭太.. 「いつになったら『魔界』とやらに行くの？」

亮介.. 「とりあえず放課後だろ？」

圭太.. 「あんまり時間無いよね？勉強もしないといけないし」

亮介.. 「その辺は任せなさい」

圭太.. 「任せて良いの？」

亮介.. 「タイタニックに乗ったつもりで？」

圭太.. 「やっぱりおりさせてもらって良い？」

亮介.. 「ならば真央に――」

圭太.. 「頑張るとするか」

亮介.. 「さすがだな」

真央.. 「2人とも何の話してるの？」

圭太・亮介.. 「何でも無い（よ）」

真央.. 「??」（怪しい・・・）」

普段の学校生活――はやくゲーム始めろよ？

真央…「私の名前は真央、我が家で一番お兄ちゃんである圭太（普段はけいにい）が好きな女の子（他所様は知りません）。好きな物は真面目な時の亮介さん、嫌いな物は『妹もの』について語ってる時のけいにい。なんか昨日急に家に帰ってくるなり病院に行き始めたけいにい（ついに精神的に異常かな？）朝も落ち着かない様子で電話してて結局朝食を食べてないし、、仕方なしに家でオニギリを作って休み時間に持って来たんだけど・・・」

真央…（また亮介さんと変な話してるのかな？）

真央…「けいにい、オニギリ持ってきたー」

圭太…「本当に魔界とやらに行って来たのか？」

亮介…「ああ、十三代目のー」

真央…（うわぁ朝っぱらから変な話してる・・・正直近寄りたく無いかも。）

亮介…「万が一断ると言うなら真央にやってもらー」

真央…（・・・あれ？今私の名前呼ばれたよね？）

亮介…「快諾してくれて嬉しいよ」

圭太…「快諾ってー」

真央…（なんか変な話してる？ってあぁっ！休み時間終わっちゃう！）

真央…「・・・次の休み時間に来る事にするしかないかなあ？」

圭太…「絶対真央には言わないでよ？」

亮介…「お前がシスコンなのはばれてるぞ？」

圭太…「本当！？ってそっじゃ無くて・・・ってか違うからな！？」

亮介…「分かってるって」

圭太…「本当かい？」

亮介..「真央以外視界に入らないだけだろ？」

圭太..「全然分かって無いでしょ!?!、と、言うよりわざとはいから」

亮介..「分かってるさ(キラリ)」

圭太..「、、、、まあ信じるよ」

真央..「むむ? けいにいが私に隠し事？」

『キーンコーンカーンコンコン』

真央..(次の休み時間に来る事にするかあ)

真央..「なんか面白そうな気配がする」

『次の休み時間』

真央..「けいにい」

圭太..「どうかしたか？」

真央..「今日朝ご飯食べてないだろうからオニギリを持って来たよ」

圭太..「ああ、助かるが・・・いらん」

真央..「何でよっ!？」

圭太..「ちなみに具材は？」

真央..「ちゃんと塩だよ？」

圭太..「本当か? チョコとか飴じゃなく？」

真央..「妹をなんだと思ってるの!?!？」

圭太..「血がつながってないなら嬉しいよ? それ以外は犯罪の何もでもない!」

真央..「本当に残念だよねえ、、まあ諦めてるぞ」

圭太..「何でだよ?、、まあ良いから一個くれ」

真央..「どうぞ」

亮介..「横からいただき!」

圭太.. 「あっ、こらっ」

亮介.. 「ごふっ!!」

圭太.. 「!?!」

真央.. 「りよ、亮介さん? どうしたの?」

圭太.. 「亮介大丈夫か?」

亮介.. 「『大丈夫だ、問題ない!』と言いたいけど水頂戴」

圭太.. 「(食われて良かった)」

圭太.. 「何いれたんだ?」

真央.. 「塩だけだよ?」

圭太.. 「亮介どう言う事?」

亮介.. 「わかりやすく言うと米の層のあと塩しか無い?」

圭太.. 「むしろ分かりにくいんだけど?」

亮介.. 「比率で言うと、1..7で塩が勝つ」

圭太.. 「兄を塩分過多で殺す気かい?」

真央.. 「ちゃんと国産だよ?」

圭太.. 「どこに意味が!?! ちなみに日本は塩なら有り余るほどあるから普通は国産だよ?」

真央.. 「そうなの?、、とところでさー」

亮介.. 「『亮介の好感度が5下がった』」

圭太.. 「わざわざ説明口調? しかも自分で横から盗んだのに?」

亮介.. 「良いから水くれない? マジでキツイ」

圭太.. 「はいはい、お茶でいいでしょ。ところで真央、何か聞きたい事でもー」

真央.. 「「うわあああああぁん」」

亮介.. 「走って行っちゃったぞ? 急にどうしたんだ?」

圭太.. 「亮介も残念だよねえ、、?」

亮介 「?..?..?」

普段の学校生活――はやくゲーム始めろよ？（後書き）

圭太.. 「次はやっに行けるの？」

亮介.. 「作者に聞けよ」

圭太.. 「どうやって？」

亮介.. 「こうやって・・・『サモンゲート』」

圭太.. 「！！？」

作者.. 「かゆ・・・うま」

亮介.. 「とりあえずバイオハザードを深夜にやるな？」

作者.. 「ん？何の用？」

圭太.. 「いつ『魔界』に行けるんですか？」

作者.. 「今日か明日？」

亮介.. 「何で疑問文なんだよ？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9071r/>

魔王になってゲームを進めてやる

2011年10月8日22時08分発行